

や、た、た、た!

この場所でおもしろいことを。

人が集う場づくりを仕事に。

山と川に恵まれた浜松市天竜区。二俣町はその入口となる町だ。中山間地域の活性化が叫ばれる中、二俣を人々が集う元気な町にしようと中谷さんは飲食店を開いた。そこには、一見寂しくなるばかりに映る町も光の当て方一つでその魅力や楽しみ方が何倍にも増すという中谷さんのアイデアと秘策があった。

message
みんなおとなしすぎる。もっとやんちゃでいいと思うな。リアルはゲームよりもずっと楽しいぞ。既成の価値観から解放たれて、もっと自由に生きてみなよ。

二俣町は浜松の山間部と市街地の結び目のようなまち。ここで、山と町を結び、人々のさまざまな交流が生まれる場所を提供したくて店を開きました。一昨年の12月から地方の魅力発信プロジェクトを立ち上げています。地域の魅力的な人、スポット、アクティビティを、感度の高い外部の人にピックアップしてもらい顕在化させる事業です。再発見した点を線でつなぎ、商品化していく計画です。

天竜を人が集う町に

高校時代の僕は、進学クラスで学ぶごく普通の学生だったけど、高三になってから受験勉強をする意味が急に分からなくなりました。勉強する代わりに本をがむしゃらに読んで、本当に興味のあることは何かと

考え続けた結果「人が集い、互いに心打ち溶け合うシーンが好きなんだ」と気づきました。そして、集いの場でコミュニケーションツールの役割を果たす「お酒」に興味を感じて、東京で醸造を学ぶことにしたんです。学生時代はバイトでバーテンダーの仕事を始め、卒業後はそのままバーに就職。でも、東日本大震災があつてから、それまでの価値観が根本的に覆されて、次第に町づくりに興味を持つようになりました。ちょうどその頃、本屋さんでたまたま手に取った本にえらく感動して、そこで紹介されている、ある会社にすぐさま連絡し、運良く入社できました。

事はずごく刺激的で楽しかった。人にはそれぞれこだわりがあつて、一風変わった物件でも、人によっては宝物のような空間かもしれない。その魅力を掘り起こしてどのように伝えるかを試行錯誤する毎日でした。

天竜は可能性の宝庫

東京での仕事が順調だった24歳の時、地元へ帰省して町をぶらぶら歩いていたら、高校時代に通い詰めていたお好み焼き屋さんやレコード屋さんが無くなってしまっていました。

さらに、この場所にあつた店も閉店して、「ヤベエな、これ」と。実はこの建物を基軸に商店街が変わつていくかもしれないと期待していた場所だったので、「いよいよ自分が何かしないと」という使命感が湧いてきて、カフェダイニングを開店してしまいました。地域の隠れた魅力に気付いていく



【やっていること】Kissa&Dining山ノ舎(やまのいえ)の経営。昼間はカフェ、夜はバーを開く傍ら、旅行業やホテル運営、浜松市との連携による地域活性化事業などに取り組む。

中谷明史さん [29]



1990年生まれ ■浜松市東区小池町で生まれ育ち、中学1年生の時に天竜区に転居 ■浜名高校卒業 高校を卒業後、東京農業大学短期大学部醸造学科に進学。学生時代にバーテンダーのアルバイトをはじめ、卒業後も2年半バーで働く。その後、東京R不動産に転職。2年間勤めた後、故郷の天竜区に戻り、2015年にKissa&Dining山ノ舎をオープン。現在は結婚し、子どもが1人。

■休日は何? / あるような、ないような。そもそも趣味と仕事の境目がない感じ。■年収/ 年収なんて意味あるかな。稼ぎより暮らしをメインに考えているから、最近考えたことないです。■高校時代にイメージしていた将来の自分/ 地元の大学を卒業後、地元の優良企業に就職して20代で結婚する予定でした。■高校時代にしておけばよかったこと/ いろんな大人から話を聞いたり、いろんな場所に足を踏み入れたり、訳の分からないカルチャーに首を突っこんでみたりすればよかった。やんちゃでできなかったことに今でも引け目を感じます。■これからの目標/ 今年は狩猟の免許を取りたい。自給自足の生活に憧れます。



『だから、僕らはこの働き方を選んだ』(ダイヤモンド社) この本を読んで感動し、転職先の会社を決めた。



2019年5月にオープンした「INN MY LIFE (インマイライフ)」は、天竜二俣線の無人駅、二俣本町駅を利用した駅舎ホテル。

